

大阪大学図書館報

Vol.27 No.1 June, 1993 (平成5年) 通巻110号

目次

- | | |
|-------------------------------------|-------------|
| ○附属図書館長就任御挨拶—大学の象徴としての図書館本館の新築へ向けて— | ○図書館委員会委員名簿 |
| ○平成4年度近畿地区国公立大学図書館協議会講演会を受講して | ○教官著作寄贈図書 |
| ○OPAC 検索案内シリーズNo.1 | ○お知らせ |
| | ○日誌 |
| | ○人事 |

附属図書館長就任御挨拶

—大学の象徴としての図書館本館の新築へ向けて—

田 中 一 朗

本年4月より、はからずも図書館長を拝命することになり、役目の重大さを痛感している毎日である。越田 豊前館長はじめ歴代館長と、本館、2分館、さらには部局、教室の図書室にいたる全図書館職員諸氏の御精励により今日の阪大図書館の成熟した姿があることに對し、まず敬意を表し、感謝いたしたい。前館長からは暖かい御支援と本館新築へ向けての詳細な申し送りを頂戴しており(図書館報 Vol. 26, No.4)、只今よりこれらを引き継ぎ、大学の使命であるべき教育と研究に役立つため図書館を更に充実したものにしよう館員諸氏とともに努力したいと思う。各位の御支援、御協力をお願いする次第である。

筆者は昨年、吹田分館長として小文を記したが(図書館報 Vol. 26, No.2)、そこでは図書館のとりくむべき急務は情報化、電子化への努力であること、しかし同時に、図書館のもつ永遠的本質としての学問・文化の宿るところという役割を忘れてはならないこと、また、これに関連して大学の象徴としての図書館像についても言及した。また、去る4月7日入学式において新入生諸君に話をしたが、その内容は、図書館は場所的にも内容的にもセンター・オブ・ユニバーシティであること、学問にあこがれて諸君は入って来た訳であるから、図書館を十分利用してもらいたいという趣旨のものであった。

これらのことは常々筆者が抱えている考えの一端であるが、本小文では本年になって急速に高まってきた本館新築への期待について述べるとともに、上述の事項についてなお若干敷衍したい。

図書館はコンピュータの出現を契機の一つの転機を迎えていることは周知の事実である。これは

何も図書館に限ることではなく、学問も社会も経済も大なり小なり影響をうけていることはいうまでもないことである。大学図書館もこのような時代の変化に応じ着実に整備していかなければならない。しかし阪大本館は3回の増築を重ねた末現在の姿になったもので、最初から今の状況を予測した構造になっていないため、残念ながら管理、運用、利用等の面で限界に達している。また、情報化のため新しいシステムを導入するにも、多くの制約、無理を伴い、機能の充実には大変不都合な状態になっている。

一方、更に問題なことは図書館スペースの狭隘なことである。増築を重ねた現在やっと10,000㎡になっているが、これは基準面積の半分レベルにしか達していない。従って現在既に書庫は一杯で、近年の図書、雑誌等刊行物の急速な増加への対応に全く苦慮している状況である。勿論これまで歴代館長、図書館職員の努力と、総長、本部事務局の御理解、御支援のお陰で、増築により今日迄のいで来た訳であり、それは誠に感謝すべきことであるが、その方法は今や限界に来たというのが現時点における判断である。

このような現状ではこれ以上増築計画を継続して出すことは適切ではなく、予算面は別にして、ともかく一刻も早く新築計画を打ち出す必要があることは誰の目にも明らかであろう。本館の建替え新築が最重点課題であるとして前館長から申し送りをうけたのも全くむべなるかなと思われる。

このような状況の中で、最近事態が急速に動いてきた。

本年3月豊中キャンパス全体を新しく生まれかわらせる再開発青写真が完成し、附属図書館本館がその中央部に建設される案が打ち出され、評議会において承認された。一方昨今大学、大学院改革が全国的に着々と進行しつつあり、また昨年来新社会資本整備の旗印の下に文教関係に大型予算を重点的に配分するという政府施策が動き出し、図書館の新築の話も夢物語から俄に具体性を帯びたものになりつつある。機は突然おとずれ、一度で終わる。是非共、その機をとらえ、あるいはむしろ呼び込み、限りなく進展する技術の世紀に適合した図書館本館新築の話具体化するため、この際準備を急ぎたいと思う。

さて、新築といえば象徴的な建物をというのがまず頭に浮かぶ。いうまでもなく、図書館は大学を象徴するものである。これについて今あらためて論じることはページ数の制約もあり、また常識論としても必要ではあるまい。けだし、図書館が蔵する文学から工学、経済から理学にいたる図書・文献は正しく大学の生命そのものであり、図書館が大学の象徴であるとされる所以であろう。しかし、現在の本館については先述の通りの建設経緯のため機能面を満足させる努力が精一杯で、象徴性どころではなかったというのが本当の所であろう。たしかに象徴性は機能とは直接関係はないように見える。しかし象徴性は人間の精神面、心理面にかかわるもので、学問という頭脳活動にはその影響は極めて大きい。特に若者を教育する機関としてその意義は多大である。

次に、象徴的であることの中味を考える。これを外見と実体とに分けてみると、外見は勿論建物であり、建築様式である。また建築場所もこの要素に属する。しかしここではこれはさておき、以下実体について若干私見を述べてみたい。

ここでの趣旨は、図書館が大学を象徴するからにはその実体も象徴的でなければならないというものである。換言すれば、図書館内部は、文献、情報検索の場のみであってはならないと思う。また、文献の保管場所のみであってはならない。図書館は実に学問場所、学問空間、思索場所でなければならないのである。図書館の機能の一つとして閲覧があるが、これは機能の一面にすぎず、それを包含する機能として学問空間、思索場所を用意し、提供するという根源的役割があることを認識する必要がある。この認識に立った上で、具体的にどのような物理的空間にすればこの理念が具

現できるかを考察、検討することが肝要である。新築の際の建築基準にこのような要素が適切に反映されるようになっているのであろうか、調べてみたい事柄である。

もう一つ付け加えたいことは、実体としての学問空間の形成には、不可欠の要素に人間的要素があるということである。図書館の利用は基本的に個人であるから、利用者個人の学問空間に最も大きくかかわるのは利用者自身である。しかしそれだけで学問空間が形成されるわけではない。まず、他の利用者との関係が決定的に重要であり、これが適正でなければ図書館の学問所としてのシステムは機能しない。それと同時にもう一つ重要な要素は図書館職員の学問空間の形成に果たす役割である。学問空間の質の高さ、快適さ、有益さ等は図書館員の、機械ではない人間としての働きにより大きく影響される。仮に、無人図書館が将来実現したとして、それが省力化、高効率化に大いに寄与するものとしても、果たして学問の場所として適切であろうか。筆者には、暖かく有能な館員が居り、他の研究者が隣で学び、そしてその中に自己の豊かな思索空間が存在してはじめて学問がなされるように思われてならない。学問は頭脳活動であるゆえに、それにかかわる人間的要素の重要性は常に不可欠であると筆者は考えるのである。ついでに言えば、論点は若干ずれるが、図書館なるものは従来ややもすれば機能的側面のみで認識されていたように思う。図書館はもっと精神的価値観の上に評価されることが必要であり、従って図書館職員の役割も同様であって、学問空間・思索場所の重要な構成要員として自他ともに認識することが肝要であると考えられる。

以上館長就任の御挨拶として新築に向けての抱負の一端を述べ、関連して図書館像に関する私見を思いつくままに記した。いずれにしても新築は大変な大事業である。しかし機は熟しつつある。できる限りの準備の上、少しでも理想に近いものを作りたいと思う。館員諸氏ともども努力していきたいと考えるので、全学の教職員各位、学生諸君の御理解、御支援、御協力をお願いする次第である。

(たなか いちろう 附属図書館長・工学部船舶海洋工学科海洋利用計画学講座担当教授)

平成4年度近畿地区国公立大学図書館協議会講演会を受講して

宮田正徳

去る2月24日(水)、京都大学附属図書館AVホールにおいて、平成4年度近畿地区国公立大学図書館協議会講演会が開かれ、近畿地区の国公立大学図書館職員78名(国立大学64名・公立大学14名)の参加者の一人として受講する機会をもつことができた。

講演者は愛知淑徳大学文学部津田良成教授で、「21世紀を展望した大学図書館サービスについて」と題した約2時間の講演会であった。講演の内容は

1. 「はじめに」として

図書館の本質的目的とその重要性について。また社会環境の変化に伴い図書館職員の意識の変化の必要性について。

2. 「過去および現在の状況」として

大学図書館の目的とその役割の変化について。

3. 「西暦2001年に向けての大学図書館の予測」として

オーストラリア、アメリカ、イギリスのそれぞれの国における図書館学の論文または図書館計

画による大学図書館の将来予測について。

4. 「結論」として

図書館の取り巻く技術・財政的環境の変化についての予測の重要性と、それに対する対応について。

のおおむね4項目であった。

今回この講演会を受講して、あらためて大学図書館の目的について考える機会をもつことができたとともに、大学図書館を取り巻く環境の変化（資料の多様化・情報要求の変化・情報生産国の多様化・情報技術の発達・財政問題など）についての再認識することができた。21世紀においてはこれらの環境はさらに変化すると考えられるが、図書館が図書館としての役割を果たすためには、政治的、経済的、技術的な変化と利用者の要求について10年20年先を予測したうえで対応していくことが重要であるとおしえられた。

(みやた まさのり 吹田分館 資料運用掛長)

☆☆☆ OPAC 検索案内シリーズ ☆☆☆ No. 1

◎はじめに

本館をはじめとする各館室には、図書や雑誌の書誌・所在情報を検索するための利用者用端末が備え付けてあり、図書館を利用される方にはもうすっかりおなじみになったことと思います。この利用者オンライン目録（OPAC=Online Public Access Catalogue）は、従来のカード目録に較べはるかに迅速に、かつ多面的な検索ができるのが特徴ですが、検索の仕方を少しでもまちがうとあるものもさがせなくなります。

今回からこのコーナーでは、OPACを検索する際のちょっとしたコツのようなものをシリーズで紹介していきます。

なお、研究室などから電話回線をとおして利用する無手順検索システムについては本館報のVol. 26, no. 2に概要の紹介記事がありますのでそちらをご覧ください。

◎条件検索と無条件検索について

インフォメーション画面で送信キーを押すと、図1の画面に変わります。この画面では、タイトル・著者名・書誌IDなど検索語の種類を意識せずに入力することが可能です。入力行に検索語を入力し送信すると、システムが自動的に項目を判断し検索してくれるので便利です。1画面で5語まで検索語を入力できますが、その場合は1語追加するごとに自動的に絞り込み（論理積検索）をしてくれます。これを無条件検索と言い、誰でも簡単に操作することができる基本的な画面です。

これに対し図2のような条件検索画面があります。図1の画面でIキーを押すとこの画面に変わります。この画面では、検索の対象となるファイル（和・洋図書、雑誌）や検索語の種類を指定することができます。また論理演算を行なうなどさきの無条件検索に較べ、より高度で複雑な検索が可能です。

まずファイル指定欄にファイルの種類を、検索語指定欄に検索語の種類をそれぞれ番号で指定し、検索語を入力した後送信します。無条件検索と同じく5語まで検索語を入力できますが、この場合

図 1

R IDLE KBO 015 R03.00
R010 大阪大学蔵書検索システム

タイトル、またはタイトル中の重要語、著者名、分類記号のいずれかをタイプし「実行/送信」キーを押してください。

検 索 語	該 当 件 数
① <u>ウチュウ</u>	342 件
② <u>ムゲンダイ</u>	1 件
③ _____	件
④ _____	件
⑤ _____	件

検索結果表示 → 送信 キー 条件設定 → I キー
 検索しなおし → PF3 終了 → PF1
 R* 【かな】

図 2

R IDLE KBO 041 R03.00
R020 大阪大学蔵書検索システム

ファイル指定	1	検索語指定	1
1. 和図書	1. タイトル	6. ISSN	11. NDLカード番号
2. 洋図書	2. 著者名	7. 全国書誌番号	12. 資料番号
3. 和雑誌	3. 分類	8. LCNO	13. 出版者
4. 洋雑誌	4. 重要語	9. NC書誌ID	14. FID
省略	5. ISBN	10. 書誌ID	
無条件			

検索語指定	検 索 語	該 当 件 数
① <u>4</u>	<u>ウチュウ</u>	315 件
② <u>4</u>	<u>ムゲンダイ</u>	3 件
③ _____	_____	件
④ _____	_____	件
⑤ _____	_____	件

「検索式を入力して下さい」 1*2 1 件
 部局コード < > < > < >
 検索式入力 → PF5 検索結果表示 → 送信 キー 検索語追加 → PF4
 検索しなおし → I キー 終了 → PF3
 R* 《英数》

はシステムは自動絞り込みを行いません。ここで表示される件数は、個々の検索語ごとのヒット件数ですので注意が必要です。各検索語ごとのヒット件数が表示された後送信キーを押下すると、画面の下方に検索式（各語の論理積、演算記号は*）が自動的に作成され同時に該当件数が表示されます。検索結果を表示したい場合はそのまま送信キーを押しますが、論理和をとるなど別の検索をしたい場合には検索式を修正してから送信をして下さい（論理和は1+2のように+を使用）。あるいは検索語ごとのヒット件数が表示された後 PF5 キーを押し、あらかじめ検索式を作成することも可能です。

なお、検索結果の表示は最大 500 件までですので、それ以下に絞り込むようにして下さい。これは無条件検索の場合も同様です。

今回は検索語の選び方について。

（附属図書館情報サービス課資料運用掛）

図書館委員会委員名簿（平成5年6月1日現在）

部 局 名	氏 名	任 期
図 書 館 長	田中 一朗	5. 4. 1～ 7. 3.31
生命科学分館長	津本 忠治	5. 4. 1～ 7. 3.31
吹田分館長	井川 直哉	5. 4. 1～ 7. 3.31
文 学 部	肥塚 隆	4. 3. 1～ 6. 2.28
	柏木 隆雄	5. 4. 1～ 7. 3.31
人間科学部	奥 雅博	4. 5. 1～ 6. 4.30
	菊池 城司	4. 9.29～ 6. 9.28
法 学 部	渡邊 惺之	3. 4. 1～ 7. 3.31
	江口 順一	5. 2.20～ 7. 2.19
経 済 学 部	竹岡 敬温	3. 4. 1～ 7. 3.31
	山下 博	5. 4. 1～ 7. 3.31
理 学 部	長島 順清	4. 4. 1～ 6. 3.31
	小川 英行	5. 4. 1～ 7. 3.31
医 学 部	遠山 正彌	62. 4. 1～ 7. 3.31
医学部附属病院	岡田伸太郎	2. 2.17～ 6. 2.16
	吉矢 生人	元. 4. 1～ 7. 3.31
歯 学 部	和田 健	2. 2. 1～ 6. 1.31
	鈴木不二男	5. 4. 1～ 7. 3.31
薬 学 部	西原 力	63.12.20～ 6. 3.31
	岩田 宙造	5. 4. 1～ 7. 3.31
工 学 部	中島 信一	4. 5. 1～ 6. 4.30
基礎工学部	石井 惠一	4. 5. 1～ 6. 4.30
	樗田 榮一	5. 5. 1～ 7. 3.31
教 養 部	平田 光兒	5. 4. 1～ 7. 3.31
	金坂 清則	5. 4. 1～ 7. 3.31
言語文化部	津田 葵	3. 8.21～ 5. 8.20
	岡野 輝男	4. 4. 2～ 6. 4. 1
言語文化研究科	赤井 慧爾	3.11. 1～ 5.10.31
健康体育部	木村 實	5. 4. 1～ 7. 3.31
	大河内寿一	5. 4.20～ 7. 4.19
微生物病研究所	西宗 義武	4. 4. 1～ 6. 3.31
	杉野 明雄	5. 4. 1～ 7. 3.31
産業科学研究所	岡田 東一	4. 6. 1～ 6. 5.31
	川合 知二	5. 6. 1～ 7. 5.31
蛋白質研究所	下西 康嗣	62. 4. 1～ 7. 3.31
	勝部 幸輝	5. 4. 1～ 6. 3.31
社会経済研究所	久我 清	元. 4. 1～ 7. 3.31
	森口 親司	4. 4. 1～ 6. 3.31
溶接工学研究所	堀川 浩甫	3.12.16～ 5.12.15
	牛尾 誠夫	4. 6.16～ 6. 6.15
事務局 長	糟谷 正彦	2. 7. 1～

(オブザーバー)

医療技術短期大学部	東 雍	3. 4. 1~
	中西 康夫	4. 4. 1~

附属図書館豊中地区運営委員会委員名簿 (平成5年6月1日現在)

委員長 (言語文化部)	岡野 輝男	4. 4. 2~ 6. 4. 1
文 学 部	肥塚 隆	4. 3. 1~ 6. 2.28
	柏木 隆雄	5. 4. 1~ 7. 3.31
人間科学部	奥 雅博	4. 5. 1~ 6. 4.30
	菊池 城司	4. 9.29~ 6. 9.28
法 学 部	渡邊 惺之	3. 4. 1~ 7. 3.31
	江口 順一	5. 2.20~ 7. 2.19
経 済 学 部	竹岡 敬温	3. 4. 1~ 7. 3.31
	山下 博	5. 4. 1~ 7. 3.31
理 学 部	長島 順清	4. 4. 1~ 6. 3.31
	小川 英行	5. 4. 1~ 7. 3.31
基礎工学部	石井 惠一	4. 5. 1~ 6. 4.30
	櫻田 榮一	5. 5. 1~ 7. 3.31
教 養 部	平田 光兒	5. 4. 1~ 7. 3.31
	金坂 清則	5. 4. 1~ 7. 3.31
言語文化部	津田 葵	3. 8.21~ 5. 8.20
言語文化研究科	赤井 慧爾	3.11. 1~ 5.10.31
健康体育部	木村 實	5. 4. 1~ 7. 3.31
	大河内寿一	5. 4.20~ 7. 4.19
社会経済研究所	久我 清	2. 4. 1~ 6. 3.31
	森口 親司	4. 4. 1~ 6. 3.31

(オブザーバー)

医療技術短期大学部	東 雍	3. 4. 1~
	中西 康夫	4. 4. 1~

附属図書館生命科学分館運営委員会委員名簿 (平成5年6月1日現在)

分 館 長	津本 忠治	5. 4. 1~ 7. 3.31
医 学 部	岡本 光弘	4. 4. 1~ 7. 3.31
	福田 淳	5. 4. 1~ 6. 3.31
医学部附属病院	吉矢 生人	4. 4. 1~ 7. 3.31
	岡田伸太郎	4. 4. 1~ 6. 3.31
歯 学 部	鈴木不二男	5. 4. 1~ 7. 3.31
	和田 健	4. 4. 1~ 6. 3.31
薬 学 部	西原 力	4. 4. 1~ 7. 3.31
	土井 健史	4. 4. 1~ 6. 3.31
微生物病研究所	西宗 義武	4. 4. 1~ 6. 3.31
	杉野 明雄	5. 4. 1~ 7. 3.31
蛋白質研究所	勝部 幸輝	5. 4. 1~ 6. 3.31

	相本 三郎	4. 4. 1～ 6. 3.31
細胞生体工学センター	谷口 維紹	4. 4. 1～ 6. 3.31

附属図書館吹田地区運営委員会委員名簿 (平成5年6月1日現在)

分館長	井川 直哉	5. 4. 1～ 7. 3.31
工学部	中島 信一	3. 4. 1～ 6. 4.30
	中村喜代次	4. 5. 1～ 6. 4.30
産業科学研究所	岡田 東一	4. 6. 1～ 6. 5.31
	川合 知二	5. 6. 1～ 7. 5.31
溶接工学研究所	堀川 浩甫	3.12.16～ 5.12.15
	牛尾 誠夫	4. 6.16～ 6. 6.15
レーザー核融合研究センター	北川 米喜	4. 4. 1～ 6. 3.31
核物理研究センター	山崎 魏	4. 4. 1～ 6. 3.31
大型計算機センター	熊谷 貞俊	4. 4. 1～ 6. 3.31

教官著作寄贈図書

—本館—

金森順次郎 (総長) 教養の物理 金森順次郎他著 (共立出版 1993)	竹岡 敬温 (経・教授) 経済史文献解題 1991 (平成3)年版 竹岡 敬温執筆分担 (清文堂出版 1992)
原田 平作 (教・教授) 地域のロゴス 原田 平作他編著 (世界思想社 1993)	山形 頼洋 (文・教授) 精神分析の系譜 (叢書ユニベルシタス 390) H. ミッチェル著、山形 頼洋他訳 (法政大学出版局 1993)
川北 稔 (文・教授) 家族・世帯・家門—工業化以前の世界から— 川北 稔他著 (ミネルヴァ書房 1993)	—吹田分館— 池田 和義 (工・名誉教授) 数式を使わない力学 (ブルーバックス B-435) 池田 和義著 (講談社 1985)
宮本 健作 (人科・教授) ゆらぎの科学 1 宮本 健作他共著、武者 利光編 (森北出版 1991)	大岡五三実 (工・非常勤講師) 日本人と近代工業の発展 大岡五三実著 (KBI 出版 1993)
大林 信治 (教・助教授) マックス・ウェーバーと同時代人たち 大林 信治著 (岩波書店 1993)	

紙野 桂人 (工・教授)
 新・都市自治論—魅力ある都市を目指して—
 紙野 桂人他著
 大阪市政調査会編
 (ぎょうせい 1993)

中村 隆雄 (理・名誉教授)
 酵素キネティクス
 中村 隆雄著
 (学会出版センター 1993)

—基礎工学部図書室—

寺田 浩詔 (工・教授)
 大学課程情報通信工学
 寺田 浩詔他著
 (オーム社 1993)

中崎 昌雄 (基礎工・名誉教授)
 化学の論文を英語で書くための
 化学英語の活用辞典
 中崎 昌雄他編
 (化学同人 1970)

—理学部図書室—

金森順次郎 (総長)
 教養の物理
 金森順次郎他著
 (共立出版 1993)

東稔 節治 (基礎工・教授)
 化学反応工学
 東稔 節治、浅井 悟編
 (朝倉書店 1993)

■■■■■ お知らせ ■■■■■

館外貸出と OPAC 利用時間の延長について

附属図書館本館では、本年6月1日から図書の館外貸出時間と利用者用端末による検索サービス時間を下記のように延長しましたのでお知らせします。

図書の館外貸出 午前10時～午後7時
 利用者用端末による検索 午前9時～午後8時30分

ただし、授業休業期間と3月1日から31日までの期間は、図書の館外貸出は午後5時まで、また、利用者用端末による検索は開館時間内となります。

■■■■■ 日 誌 ■■■■■

- | | | |
|-------------|-----------------------------|------------|
| 5. 4. 12~14 | 新入生対象図書館利用オリエンテーション | (本館) |
| 5. 4. 26 | 日本医学図書館協会理事会 | (東京大学) |
| 5. 4. 30 | 近畿地区国立大学図書館協議会総会 | (京都大学) |
| 5. 4. 30 | 近畿地区国公立大学図書館協議会企画委員会 | (京都大学) |
| 5. 4. 30 | いちよう祭展示会 | (本館) |
| 5. 5. 14 | 近畿地区医学図書館協議会例会 | (奈良県立医科大学) |
| 5. 5. 20~21 | 日本医学図書館協会総会 | (川崎医科大学) |
| 5. 5. 25 | 大学図書館国際連絡委員会総会 | (東京大学) |
| 5. 5. 26 | 国立大学図書館協議会文献複写に係る著作権問題特別委員会 | (東京大学) |
| 5. 5. 26 | 国立大学図書館協議会賞受賞者選考委員会 | (東京大学) |

5. 5. 26 国立大学図書館協議会常務理事会 (東京大学)
 5. 5. 27 国立大学図書館協議会理事会 (東京大学)
 5. 6. 8 国立大学附属図書館事務部課長会議 (東京医科歯科大学)
 5. 6. 11 近畿地区国公立大学図書館協議会総会 (高野山)

■■■■ 人 事 ■■■■

大阪大学附属図書館長の交替

任期満了 越 田 豊 (教養部教授) 5. 3. 31
 就 任 田 中 一 朗 (工学部教授) 5. 4. 1

生命科学分館長の交替

任期満了 鈴 木 不二男 (歯学部教授) 5. 3. 31
 就 任 津 本 忠 治 (医学部附属バイオメディカル教育研究センター教授) 5. 4. 1

吹田分館長の交替

解 除 田 中 一 朗 (工学部教授) 5. 3. 31
 就 任 井 川 直 哉 (工学部教授) 5. 4. 1

移動前の所属・職名	氏名	異動内容	発令年月日
情報サービス課参考調査掛	西 知子	(昇任) 情報サービス課基礎工学情報掛長	5. 4. 1
医学情報課資料運用掛主任	平林 京子	吹田分館目録情報掛長	〃
国立民族学博物館情報管理施設情報企画課	加茂庄一郎	情報管理課会計掛主任	〃
情報サービス課基礎工学情報掛長	泉 文雄	(配置換) 吹田分館資料受入掛長	5. 4. 1
情報管理課システム管理掛長	伊藤 彰	情報サービス課資料運用掛長	〃
〃 庶務掛長	佐藤 秀利	庶務部研究協力課研究助成掛長	〃
	永田 敏恭	(採用) 情報サービス課参考調査掛	5. 4. 1
	藤田 直美	医学部情報資料運用掛	〃
	村上 恵子	事務補佐員 情報管理課庶務掛	〃
	津田理恵子	〃 医学情報課資料運用掛	〃
	長谷川淳子	〃 吹田分館目録情報掛	〃
	中岡 弘之	〃 情報サービス課参考調査掛	5. 4. 12
	本村 眞章	〃 〃 資料運用掛	〃
	岩佐 英彦	〃 吹田分館資料運用掛	〃
	前川 浩二	〃 〃 〃	〃
	細野 淑子	〃 医学情報課資料運用掛	5. 5. 1
	吉川 寿子	〃 情報サービス課資料運用掛	5. 6. 1
		(転入)	
筑波大学附属図書館事務部長	松浦 正	事務部長	5. 4. 1
岡山大学附属図書館情報管理課長	渡邊 正人	情報サービス課長	〃
兵庫教育大学総務部庶務課職員係長	宮下 順一	情報管理課庶務掛長	〃
学術情報センター事業部データベース課 データベース管理係長	大西 直樹	〃 システム管理掛長	〃
北海道大学獣医学部	町田由紀子	〃 洋書目録情報掛	〃

移動前の所属・職名	氏名	異動内容	発令年月日
情報サービス課長	高野 良弘	(転出) 金沢大学附属図書館情報サービス課長	5. 4. 1
“ 資料運用掛長	喜多 吉一	京都大学教育学部図書掛長	“
情報管理課洋書目録情報掛	西山 直子	国立民族学博物館情報管理施設情報サービス課 (退職)	“
事務部長	坂東 瑞昭	定年	5. 3. 31
吹田分館目録情報掛長	山口賀代子	“	“
“ 資料受入掛長	茂幾 周治	“	“
情報管理課会計掛主任	佐藤 恒男	“	“
事務補佐員 情報管理課庶務掛	岸上 律子	任期満了	5. 3. 30
“ 医学情報課資料運用掛	横田真理子	“	“
“ “ “	泉 旭洋	“	“
“ “ 参考調査掛	吉高 佑子	“	“
“ 吹田分館目録情報掛	男澤 美咲	“	“
“ 医学情報課図書受入掛	糸井 久美	“	5. 5. 31

お詫びと訂正のお願い

前号 {VOL. 26, No.4 (通巻 109 号)} に記載記事の誤りがありました。

お詫びして訂正致します。

削除 p. 6 教官著作寄贈図書 左列 下から 17 行目から 20 行目まで。

越田 豊(教・教授)国文学研究資料館の 20 年(国文学研究資料館 1992)

